

日時：平成28年(2016年)9月21日(水) 14:00～16:50

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：2名

委員長	<p>開会 では、第6回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認 傍聴希望者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者は2名である。</p>
	<p><傍聴希望者入室></p>
委員長	<p>議題1 行政評価委員会のまとめ等について では、議題1「行政評価委員会のまとめ等について」の審議を始める。前回の委員会でご意見をいただいた第4回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認する。</p>
	<p><第4回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認></p>
委員長	<p>では次に、第5回行政評価委員会の議事録について、各委員修正等ないか確認する。</p>
	<p><第5回行政評価委員会の議事録について修正等意見></p>
委員長	<p>では次に、第5回行政評価委員会のまとめについて、各委員修正等ないか確認する。</p>
	<p><第5回行政評価委員会のまとめについて修正等意見></p>
委員長	<p>議題2 行政評価委員会の総評等について では、議題2「行政評価委員会の総評等について」に移る。 今年度の行政評価委員会における総評をまとめるに当たり、各委員から意見・講評をお願いする。</p>
委員	<p>限られた時間の中、様々な角度から指摘や提言ができたのではないかと感じている。 目標の実現に向けては、事業の必要性や有効性、効率性の観点を持って、評価を行うことが重要である。協働のまちづくりに向けては、どう市民参画を促していくかを考えることが大切である。また、施策全体として、協働の取組の底上げがなされているかをしっかり見ていく必要がある。</p>
委員	<p>評価表の指標や金額の数字も追いながら、これまでのプロセスの把握に努め、評価を行った。公共施設マネジメントによる施設の最適化への取組など、行財政運営のあり方も変化してきているが、市民にはまだまだ浸透していない。事務の進め方に</p>

	<p>については、効率化を図り、市民サービスの向上に繋げてもらいたい。</p>
委員	<p>過去の行政評価委員会において、指摘、提案した内容がどのように市政に反映されているのか疑問がある。以前から指摘しているが委託先での事業内容が見えにくい。受託者からの事業報告書などもあると思うので、見る機会があっても良いと思う。市民の信頼獲得は、公務員倫理を守るだけではできない。協働による取組を実践していく中で、信頼が生まれてくるものであるなので、意識してもらいたい。</p>
委員	<p>最終、行政評価委員会のまとめを作成し公表するが、まとめの中では、審議の過程が分からないので、市民が見た時に、なぜそのようなまとめとなったのかが分かりにくい。資本の投下に当たっては、市場調査を行った上で、償却のことも考え、行っていると思うが、財政的な悪化は、最終的に市民の負担となる。資本の投下は、慎重に行う必要がある。</p>
委員	<p>施策評価、事務事業表、外部評価を実施しており、評価を行うことは大切なことであるが、それらに時間をとられ、本来すべき事業にとりかかれていないのであれば、本末転倒なので、評価の方法や適正性について考えていく必要がある。事業費はないが、人件費はかかっている取組があり、それらの取組をどう評価していくかということも検討していく必要がある。協働の取組の中にも、事業費がかかっていないものもあると思うが、それらは、現在の評価システムでは、見えにくい。協働の取組が進んでいるのか、また、市民の意見が、庁内でどのように検討され、意思決定されているのかが見えるとよい。指定管理制度については、市民団体との協働による施設運営がもっと取り入れられないか検討してもらいたい。</p>
委員長	<p>評価の手法としては、全施策を対象にまんべんなく行うやり方と一部の施策や事業に力点を置いて行うやり方がある。本来は、両方必要となるが、時間的に難しい。評価の手法は、今後検討の余地がある。昨年度行ったアンケートの結果では、1つの事務事業評価表の作成に係る平均時間は90分程度であった。評価を負担に感じる職員もいると思うが、90分程度の時間であれば、そんなに負担になっているとはいえず、評価は有用であるといえる。職員に評価を行う意味の理解の浸透を図るとともに、目標の達成によって、職員の満足度も向上していくような形となるとよい。</p>
委員長	<p>以前から指摘しているが、もっと分かりやすい政策体系にしていく必要がある。また、事務事業評価においては、予算や内容のより詳細な情報があれば、より具体的な改善提案も可能となるので、充実してもらいたい。</p>
委員長	<p>次に、資料1「平成26年度の「施策展開の方針」ごとの評価に対する取組状況等への意見と回答」について、確認していく。</p>
事務局	<p>昨年度の行政評価委員会の指摘内容に係る市の対応状況について、第1回委員会で審議いただき、対応状況に対して意見をもらったが、その意見に対する市の回答を資料1のとおりまとめた。資料1は、今年度の行政評価委員会のまとめである「平成27年度の施策評価について」に掲載していく。</p>

委員長	資料1について、意見はあるか。
委員	全般的に、もう少し具体的に取組内容や今後の展開等の記述をしてもらいたい。
委員	「監査」と「行政評価」の違いは何か。
委員長	「監査」は、法律や規則等に違反していないかという視点で見ると。「行政評価」は、社会経済情勢や総合計画等を通して、事務事業の必要性や成果、予算の削減の可能性といった視点で見ると。
委員長	次に、資料2『施策展開の方針』ごとのまとめについて確認する。
委員長	P2「保健・医療」2、市立看護学校の運営維持が必要なのかという課題提起は、強調したい。近隣に私立の看護学校がある中、市で看護学校の運営を維持していく必要があるのか検討が必要である。
委員	P2「高齢者福祉」1、市特別給付事業の配食サービスについて、事業の必要性を検討するというより、やり方を見直してはとの意味である。長期にわたる事業であり、検証を行いさらなる改善を図ってはどうかと改める。
委員	P3「地域福祉」1、災害者要援護者支援について、行政、民生委員、地域内の団体で、災害者要援護者支援が必要となる人の情報の共有化を図る方法を検討する必要がある。また、その狭間で情報を拾いきれない人をどうしていくかということも考えていく必要がある。
委員長	P4「防災・消防」1、今まで以上に、災害の初動時に市民が具体的に何をすればよいかを理解し、に修正する。
委員長	P5「開かれた市政」1、エフエム宝塚について、その必要性や費用対効果を常に意識してほしいことを改めて強調したい。
委員長	P5「開かれた市政」2、審議会等の数が多いことや、市民公募委員の数や選定方法についての検証、検討が必要である。
委員長	P6、「行財政運営」4、職員の外部研修への参加等についても、強調したい。
委員長	『施策展開の方針』ごとのまとめについては以上とする。本日の各委員の評価、意見をもとに総評をまとめていく。
委員長	何に予算を使って、どんな事業を実施しているかを具体的に掴めたらより改善策等を提案しやすいので、評価システムの改良に当たっては、意識してもらいたい。次期総合計画の策定においては、簡潔でわかりやすく、4年程度の短期のものにしてみてもよいのではないかと思いますので検討をお願いします。

委員	PDCA サイクルの中で行政評価委員会は C の評価部分を担っており、今年度指摘した内容について、どのように取り組まれたのかを見ていく必要がある。PDCA を回し、さらなる市民の満足を得るよう努めていく必要がある。
委員	ここ数年、自治体を取り巻く環境が大きく変化しており、業務内容が複雑化している。そのような状況にあるからこそ、前向きに評価を行い、今後の改善策や展望について検討してもらいたい。
委員長	最後に市より一言お願いします。
企画経営部長	(挨拶)
委員長	それでは第6回の行政評価委員会の審議を終了とする。